

今週（9月30日から10月4日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、2日に税揚げがあったことで、週後半の日銀当座預金残高は400兆円前後まで減少した。9月30日は月末要因から地銀勢の調達ニーズが弱まり落ち着いた取引となったが、10月に入ってからは都銀・地銀・信託・証券業態からしっかりとした調達が見られ、週後半にかけて取引レートが急上昇した。無担保コールO/Nの取引レートは、都銀・地銀業態は、▲0.075～▲0.005%、信託・証券業態は、▲0.070～▲0.005%の幅広いレンジとなった。加重平均レートは1日以降に急上昇し、1日が▲0.048%、2日が▲0.036%、3日が▲0.019%となった。4日には▲0.011%と、マイナス金利政策開始（2016年2月16日）直後の水準まで上昇した。なお、コール市場においては、各種制度・システムが整った2016年4月の積み期間（2016年4月16日）以降にマイナス金利での取引が本格化した。ターム物に関しては、1・2Wのショートターム物で、▲0.020～▲0.010%で散発的な出合いが見られた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、4日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額1,598億円（期落ち額3,058億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、▲0.10～▲0.04%程度のレンジで推移した。積み期間後半に入ってからは、レートが徐々に上昇している。

SC個別銘柄では、5年132～140、10年335～355、20年162～169、30年59～63、40年9～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全般的に閑散なマーケットとなった。3M物は、店頭での買いもあってか▲0.380%程度の出合いと強含みで推移した。6M物・1Y物は、▲0.305%程度の出合いと前週並みの水準で推移した。

1日に実施された短国買入オペは、国債相場が過度に強くなっているためか、オファー額が1,000億円程度に抑えられ、3M物（860回）は買入対象から除外された。平均落札利回較差+0.012%、按分落札利回較差+0.006%と、在庫調整の売りから弱めの結果となった。

4日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.380～▲0.375%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.3657%、按分落札利回▲0.3333%とWI取引ほどの強さは見られない結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.360～▲0.358%出合いと堅調に推移している。

●CP市場

CP市場は、下半期入りの週となり、週間償還総額2,000億円程度に対して、発行総額は1兆円程度と、9月末に残高を調整した企業の大型案件が多く見られた。連日発行超となり、月初旬としては活況なマーケットであった。市場残高は、9月末に約17.5兆円程度まで減少したものの、3日時点では18.6兆円まで膨らんでおり、月初来の発行増加額は1.1兆円程度となっている。ただ、事業法人の上半期業績がそれほど芳しくないこともあってか、現時点では発行銘柄に偏りがあり、前年に比べると発行増加のペースが落ちている。発行レートについて、9月末ほどの玉不足感は漂っておらず、概ね0%近辺とやや上昇傾向となっているが、一部の発行残高の少ない希少銘柄については強めの買いも散見された。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
9/30（月）	21,755.84	△ 0.225	107.95	△ 0.064	△ 0.099	4,084,100
10/1（火）	21,885.24	△ 0.140	108.17	△ 0.048	△ 0.089	4,067,300
10/2（水）	21,778.61	△ 0.170	107.84	△ 0.036	△ 0.069	4,000,100
10/3（木）	21,341.74	△ 0.195	107.14	△ 0.019	△ 0.049	3,999,900
10/4（金）	21,410.20	△ 0.215	106.82	△ 0.011	△ 0.048	3,995,400

来週（10月7日から10月11日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/7 (月)	9月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 8月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)				8月の米消費者信用残高
10/8 (火)	8月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 9月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 8月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 9月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	流動性供給 6,000億円 10/9発行	交付税借入 10,500億円 10/18借入		9月の米生産者物価指数
10/9 (水)		TB6M 23,000億円 10/10発行			8月の米卸売売上高
10/10 (木)	ASIFMA・Annual Conferenceにおいて雨宮副総裁講演 8月の機械受注統計(内閣府 8:50) 9月の企業物価指数(日銀 8:50) 8月の特定サービス産業動向統計速報(経済産業省 13:30)	TB2M (発行中止)	30Y 7,000億円 10/11発行	エネルギー 対策借入 6,500億円 10/21借入	9月の米消費者物価指数 9月の米財政収支
10/11 (金)	9月のマネーストック(日銀 8:50)	TB3M 43,300億円 10/15発行			10月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/7 (月)	1,000	3,300	4,300	国債買入 全店共通 CP買入 国債補完	▲ 3,100 ▲ 100 900	4,600 1,600	3,900	8,200	TB3M発行▲42700償還43300
10/8 (火)	1,000	0	1,000				0	1,000	
10/9 (水)	0	▲ 5,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	流動性供給発行△6000
10/10 (木)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	TB6M発行△23000償還17900
10/11 (金)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	TB2M発行中止 30Y発行△7000 交付税借入△10500期日10500
週間合計	0	▲ 10,700	▲ 10,700	—	▲ 2,300	6,200	3,900	▲ 6,800	

10/7は日銀予想、10/8以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き強い水準での取引が予想される。無担保コールO/Nレートは今週と横ばい圏で推移すると思われる。レポ市場は、GC T/Nは横ばいから若干上昇する動きが想定され、▲0.08～0%程度の推移を予想する。短国市場は、9日に6M物、11日に3M物の入札が実施予定となっている。堅調な相場がどこまで継続するか、市場動向が注目される。CP市場は、11日にCP等買入オペが2,500億円で実施予定となっている。今月はオファー回数とオファー総額が2回・総額5,000億円と、先月の3回・1兆2,000億円に比べ大幅に減少している。期明けにより発行市場が活況になっていることもあり、業者の売却ニーズが一定程度見られると考えられ、レートは0%に近づくことが予想される。

主要なイベントとしては、10日に9月の米CPIなどが予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。